

第2次十日町市立小・中学校の学区適正化に関する方針 令和元年度説明会の概要（9月実施分）

【十日町地域】

		日時、会場等	主な意見等
新座・大井田地区	日時	9月17日（火） 19：00～20：00	<p>① 十日町市全体で、令和10年までに地域の了解があれば、計画を早く進めることはあるのか。 [答] 何よりも地域の皆さんの合意が必要と考えている。例えば、3年後に合意ができれば統合の段取りを進めたいと考えている。</p> <p>② 川西側の中学校を統合するなど色々な意見があるので、中条中学校と下条中学校で統合の話がまとまっても、先に統合することはないのか。 [答] 川西中と下条中が中条中に統合する方針である。川西中が中条中に統合するには、現状では教室数が足りないため、統合する時期を遅らせなければならない。下条中が早く統合したいということであれば先行することは可能である。</p> <p>③ Q&amp;Aの8で、統合する場合に体操着や制服などの経費に、市の定める基準により補助とあるが、どのような基準なのか。 [答] 学校指定用品では、小学校では制服はないので体操着が主なものになると思うが、長袖体操着の上下を各2枚、半袖体操着の上下を各2枚までの購入に対して、3分の2を補助する。統合する前年度の1年度限りに適用する制度となっている。</p> <p>④ 地域の合意というのは、具体的にどうやって意見を確認するのか。 [答] 学校を統合する場合、今までの例から言うと要望書を提出していただいた。東小学校については、新座地区と大井田地区の子どもが皆十日町中学校へ進学するにあたり、特別なルールはないが要望書をいただくか、それ以外の方法で地域の皆さんのご了解を確認したい。</p> <p>⑤ 尾崎の児童は1kmくらい通学距離が長くなるということだが、中条中が近いからそちらへ通いたいというのは可能なのか。 [答] 学区外就学という制度があり、色々な事情の中で指定された学校と違う学校に通っている子どもがある。家から近い学校へ通いたいということも申請により該当する場合があると思う。</p> <p>⑥ 保護者が合意しても地区の振興会などが反対した場合、話し合っ決めてというルールになるのか。 [答] 今までの統合の例では、そのようなパターンが多く、保護者の気持ちを尊重して地域からご理解いただいたということがほとんどである。まず保護者の皆さんから話をまとめていただき、地域の皆さんに保護者の気持ちをお伝えいただければ有り難い。教育委員会もお手伝いさせていただく。</p>
	会場	東小学校体育館	
	対象	・学校運営協議会 ・保護者	
	人数	36人	

中 条 飛 渡 地 区	日時	9月24日(火) 19:00~20:30	<p>① 中条中が下条中と川西中の3校で統合する計画だが、学校名はどこで決定するのか。 [答] 教育委員会がこうしていただきたいということはなく、後援会やPTA、学校運営協議会など関係する組織がコンセンサスをとり、教育委員会に提案されれば議会の議決をいただくよう進める。</p> <p>② 我々は校歌が大好きであり、集まりなどで校歌を歌うこともある。小学校や中学校でも愛着を持っており、これを変更するのは面倒なことだと思っている。 [答] 校歌は、母校愛の基本になるものと思う。松代小学校に孟地小学校と奴奈川小学校が統合したが、松代小学校では3つの校歌を大事にして、学習発表会などで歌っていたという記憶がある。おそらく3つの中学校が対等で統合するなら、新しい校歌を作るというのが皆さんのコンセンサスになると推察される。古い校歌についてどのように取り扱うかは、学校運営の中で学校長が判断するものと思う。</p> <p>③ 部活動をしてから下校するが一斉ではないので、バスに乗り遅れると親が迎えに行かなければならない。運行も台数が増え、難しくなると思う中で、部活対応はどうなるのか。 [答] 部活動に対する下校便のバスについては、現在も各学校でスクールバスが運行されており、帰りは基本的に2便体制をとっている。夏場と冬場で部活動の時間が違うので、多いときには3便体制をとっている。スクールバス送迎をする人数やルートを子どもの乗車状況に合わせて毎年度検討しながら、学校の校時にも合わせて運行している。</p> <p>④ 今の中条中学校の校舎を使用すると思うが、国道117から学校の入口が狭く、スクールバスが左折で入るには、センターラインを越えて大きく曲がらないと通れない。入口の拡幅をしないと支障をきたすのではないかと思う。 [答] 私も乗用車で通るにも入口が狭いと感じていた。それを課題として受け止めたい。</p> <p>⑤ 私たちへの説明の前に、市議会議員には説明しているのか。 [答] 総務文教常任委員会で説明しており、その席には他の常任委員会に所属の市議会議員も傍聴できるため、ほとんどの市議会議員は承知していることと思う。</p> <p>⑥ 教育と命は平等ということで先生方にはお願いしている。少子化の中で飛渡第一小学校の歴代の校長先生や教員の皆さんは、一生懸命頑張ってください。何とか学校を残す手立てはないかと考えているので、よろしくお願ひしたい。 [答] 飛渡地域の皆さんには、8月21日に地域の皆さんを含めて説明をしているが、地域の皆さんの熱い思いをお伺いしている。自分の子どもを複式ではない学校で学ばせたい、という方もいらっしゃるが、地域が存続ということであれば、無理に統合することはできない。地域内で色々なご議論をしていただければ有り難いと思う。</p> <p>⑦ この方針を見ると、人数が少ないと切磋琢磨するなどが期待できず、教員配置も少なく教員の負担も増える。人数が多ければ、それが解消されるというのは十分理解できる。教育委員会がこの方針を作るにあたり、例えば新潟県の方針があるからそれには踏み込めない、などの制約があるのか。 [答] 方針を定めるにあたって特段強力な制約はない。学区適正化検討委員会で、市民の皆様、PTA代表の</p>
	会場	中条小学校	
	対象	中条飛渡地域協議会 ・役員、住民	
	人数	20人	

皆様など 16 名の委員の皆様から昨年 7 月 3 日から今年 3 月 11 日までご議論いただいたものを基に、教育委員会として 5 月に最終決定したものである。小さな学校でも、飛渡第一小のように特色ある教育を行っているところもある。また、小さな学校だから成績が悪いということもない。特に複式の学校の先生方は大変な努力をしながら教育レベルを維持するよう頑張っている。ただ、ある程度的人数があり切磋琢磨し、大勢の中で揉まれ合うことが大事で、子どもたちの可能性が大きくなるのではないかと考えている。国や県が考える適正な規模の学校は、小学校、中学校とも全体で 12 学級から 18 学級であり、小学校では 1 学年 2 から 3 学級、中学校では 1 学年 4 から 6 学級が標準であるという目安を作っているが、特段それに制約されたものではない。

⑧ 東小学校区には、新座と大井田がある。元々新座も中条村であったが、大井田は特に中条と縁が深く、これを分けることは有り難いことではない。東小に新座だけでは困るので、大井田のいくつかの町内を中条小学校の学区にして、中条中学校へ行くとし、東小が十日町中学校に行くというような話はあるのか。

[答] 新座小学校があった当時は、近くに十日町中学校ができたので十日町中学校へ行くことになり、その後新座小学校と大井田小学校が統合して東小学校ができたものである。その時点から変則的な形になって中学へ進学することになった。今のご質問では、大井田地区の子どもを分けた形という話があるかということと思うが、そのような話はない。地域と保護者の話し合いの中でそうしてほしいということであれば、教育委員会としては検討しなければならないと思う。

⑨ 自分は中原なので、十日町中学校の方が近いのではないかと思っていた。昔は田川橋の手前まで中条中学校であった。そう考えると、四日町と四日町新田を分けても良いのではないかと比較的に大井田と中条の繋がりを持てるのではないかとと思う。

[答] 大井田地区の子どもたちが中条中の方が近いのか、十日町中の方が近いのかというと大体半々くらいだと思う。これからの話し合いの中でどうするのか、大井田地区の皆さんと相談したいと思う。

⑩ 令和 10 年度までの期間で、今年度説明会をしているが、今後の説明会の予定やその都度地域の声を確認することについては、どんな予定を考えているのか。

[答] お手元の資料には決まった説明会の日程が載っているが、1 年程度は色々なところへ行き、繰り返し説明させていただき、ご理解を深めてほしいと思う。その先については、地域の皆さんがどう考えるかである。未就学児の保護者の皆さんを含めて、保護者の皆さんが気持ちをまとめていただき、その後で地域の皆さんを交えた中で最終的にどうするか検討していただきたい。

⑪ 第 1 次方針のときには、1 回説明会を行ってそのままになってしまい、なかなか進まなかったのではないかとと思い、毎年でなくとも時々意見を聞いて、地域の声を大事にしてほしい。

[答] 第 1 次方針を定めたときは、小学校だけの再編だったこともあり 1 回の説明をして、その後は声かけはしていたが、再度の説明会はしていなかった。今回は、中学校についても大きな再編を提案しているので、色々な機会をいただきながら繰り返し説明をさせていただき、十分にご理解を賜りたいと思う。

⑫ 川西地区に中学校が無くなり、吉田地区と松代地区にも中学校が無くなり、川の西側に中学校が 1 校も無

くなるということで、ムードや雰囲気的に懸念があるが、どう考えているか。

[答] この質問については、川西地区の説明会、吉田地区の説明会、松代地区の説明会でも、人口集中地区に中学校を集約するののかというご質問がある。川西地区については、妻有大橋ができて中条地区と近くなった。川西地区の上野の交差点から栄橋経由でも妻有大橋経由でも12分程度である。学区適正化検討委員会でも川を渡ることについて議論があったが、私としては十日町地域が近くなったということで特段の違和感はないけれど、中条地区の皆さんからすると、川西地域と一緒にするのは少し抵抗感があるように聞いたことがある。川西側に中学校が無くなる要因のひとつは、川西中学校が1学年2学級で建築したということがある。吉田中や松代中を統合し、1学年3学級にするには、教室数が足りないということである。松代中と吉田中については、国道253号沿いに連坦している地域であり、上沼道ができるとより近さを感じるようになるのではないかと。松代地域の皆さんが一番心配しているのは、通学時間が長くなることである。教育委員会としては、できるだけ通学に負担が少なくなるようさらに検討しなければならないと考えている。

⑭ スクールバスの運行距離について、川西地域から中条中までは通学の基準の中学校6kmという距離ではないと思う。また、松代地域から南中までも同様だと思うが、来る子どもたちにとっては距離だけでなく時間も大変だと思うのでどう考えているか。もう一点は、中条小も中条中も受け入れる側であり、川西地域などのこちらへ来る側の考えについて、説明会が終わっているようなので教えてほしい。

[答] 徒歩で通学した場合に小学生は4kmで1時間、中学生は6kmで1時間という考え方で、それを超えるようならスクールバスということである。地域の声では、統合に賛成という声もあるが、多くの皆さんが学校を残してほしいというのが本音である。子どもたちの学ぶ環境をどのように考えていただけるかを教育委員会として地域へ説明申し上げているところである。

地域で説明会を行い、いろいろな意見や質問を説明会の概要としてまとめ、市のホームページに1ヶ月ごとに随時掲載するので、それを確認してほしい。

⑮ 地域代表は振興会があり、学校にはPTAという組織がある。今後の地域の話し合いをリードするのはどちらになるのか。

[答] 難しいところだと思っているが、基本的には一番に保護者の意見を大事にしてほしいということが当方の考えである。PTAと未就学児の保護者を交えて、まず保護者の皆さんの気持ちをどう揃える事ができるか、その後で地域の皆さんとの話し合いを持つという形がいいのではないかと考えている。これについては、地域の事情もあると思うので、各地域の考えの中で、最良の方法を見つけていただければ有難い。

⑯ 中条中と下条中と川西中が統合する方針だが、意思が決まったところから順次統合になるのか、3校が同じタイミングで統合になるのか。もし、1校が統合すると決めても、もう1校が存続することになり、令和10年度までに統合が決まらなかった場合はどうなるのかを教えてください。

[答] 中学校の統合については、1学年2学級にならないときには統合するということだが、川西中は1学年2学級であるため、今は人数が多く中条中では受け止め切れない。下条中は1学年1学級になっているため、地域の合意があれば来年度からでも統合できる。川西中については、もう少し子どもたちが少なくなっ

た令和8から9年度にならないと中条中では受け止めきれない。

⑰ 自分が中学校でスクールバス通学であった。スクールバスだと部活動を最後までできないし、朝少し早く学校に行き委員会活動も参加できないので、違う委員会を選んでみた。親が送ることができない子どもは、スクールバスで通うしかない。今でもスクールバスで通っている子どもは、下条中から中条中までの分が長くなる。川西中から中条中までの分が長くなる。バスだから良いと思うかもしれないが、子どもは大変な思いををすると思う。子どものためと言うが、もう少し考えてほしい。小学校では、未就学児の保護者と話し合いをしたいと思っている。小学校では行事のお誘いをしているが、参加がなく残念に思う。15年前、20年前とは違う良い状態の飛渡第一小を見てほしいと思う。飛一小なんてと言わずに、祖父母の世代からも見てほしい。家の子供に学校を縮小していくという話をしたら、十日町市が学校を減らすことを考えるのではなく、若い人が市外へ流れないことを考えたほうが良いと言っていた。子どもたちにも解るような、人が流出しない、子どもを生んで育てられる市にしてほしいと思う。

[答] 川西地域でも仙田地区や橘地区の子どもたちは、すでにスクールバスを利用して通学している。現在徒歩で通っている千手地区、上野地区の子どもたちがスクールバスに乗って通うことになる。子どもたちに出来るだけストレスが無いような形で運行しなければならないし、委員会に参加できないということも、しっかり検討しながら時間設定しなければならないと感じた。未就学児の保護者と話し合いたいということだが、小学校に兄弟がいる未就学児の保護者を含めた未就学児の保護者だけの話し合いも計画している。学校を減らすことだけでなく子どもたちを増やす施策については、大事な観点と思っている。十日町市では子育て支援対策として保育料を4割減で設定し、10月1日から保育料の無償化という国の制度もあり、負担の軽減が図られる。子どもの医療費の無料化なども、県内でも早い段階で取り組んだ。これからも人口増対策、定住促進の施策についても力を入れていかなければならない。また、この地域に誇りを持ってもらいたいと思う。中条地区では国宝の火焰型土器があり全国に誇る宝物であると思う。国が力を入れている「日本博」のホームページの5つの画面のうち、十日町市の火焰型土器と清津峡トンネルの大地の芸術祭の作品が日本を代表する美術ということで2つが採用されている。子どもたちに大いに語ってほしいと学校に伝えている。色々な形でこの地域に定住が促進され、子どもたちが増えていく施策については、これからも必死で考えて実行して行きたいと考えている。

⑱ 小中学校の子どもたちが、学校が変わったり、規模縮小になったり、負担がかかるようだと、やはり好きではなくなっていくこともあると思うので、あまり変えない方がいいのではないかなと思う。

[答] 方針を定めた中で、説明をさせていただいているが、地域の皆さんが反対する気持ちであれば、教育委員会が独断で統合を進められないので、ご理解いただきたい。子どもたちが減っていく中で、教育環境をどうするのか、その実態について説明する義務があると思っている。地域の皆さんにとっては学校を残してほしいという気持ちが強いと思うが、本当にそれだけでいいのか。子どもたちの学ぶ環境について市民同士でも議論いただければ大変有難いと考えている。

⑲ 24ページの中学校再編学区位置図は、地域の皆さんの要望が合理的であれば変わると考えて良いか。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">（中条飛渡地区）</p>			<p>[答] 基本方針では、1学年2学級以上であり、またある程度存続できるような形であってほしいというお願いである。そういうことからこのような学区割をしたものであるが、より良いアイデアがあればそれについてまた検討したいと思う。</p> <p>⑳ 5年後には川西中学校の生徒数が変わる。吉田中や松代中の方が良いのではないかという議論が出てくると思う。それを視野に入れて地域の皆さんも見ていると思うが、どう考えているか。</p> <p>[答] 松代中、吉田中、川西中では、川西中が一番新しく4、5年前に建築し、一番活用しなければならないと思っている。吉田中と松代中については、耐震化されてはいるが大分老朽化度が進むと思われる。吉田中学校の校地には借地があり、その負担も大きいということがある。3校の中でどこに統合するかとなれば、川西中になるのが一般的だと感じる。これについても、吉田地域の皆さん、松代地域の皆さんが、南中学校でなく川西中学校にというコンセンサスが取れない限り、そういう形に変更して進めないと思っている。</p> <p>㉑ 全戸にアンケートをとる訳ではないと思うが、コンセンサスが得られるという基準というのは何か。</p> <p>[答] 保護者の代表者や地域の代表者の要望書というものができるのであれば有難い。</p> <p>㉒ 皆さんが話し合った結果であれば異論は無いが、それが無いうちに崩しというのは不安がある。</p> <p>[答] 地域に反対が根強い中で、PTA会長さんや地域の代表者が要望書を提出したというのは困るので、地域で十分にご議論を賜りたいと思う。</p> <p>㉓ 通学について、どこに子どもがいるか分かるならシュミレーションできると思う。松代地域で、例えば1時間半もかかれば無理だからまつのやま学園に行こうとなると思う。様々な路線で、スクールバスはこれくらい時間がかかるということを示さないと理解を得られないと思う。2点目に、下条小と下条中は一貫校ではないか。下条中が統合し一貫校が解消されると、教育に対するビジョンの一貫性が得られず、地域の理解を得られないと思う。3点目に、八箇地区は十日町中学区の方が良いのではないか。また、川を渡る学区では、災害があった際に橋が渡れず復旧まで教育を受けられないということを考えたものなのか説明してほしい。</p> <p>[答] スクールバスの運行については、松代地域の西側が一番遠い地区であり、市営バスで通学している。いかに時間を短縮しながら南中に連れて来れるかということであるが、乗用車をスクールバスとして利用するなどの方法もある。事情の分かる松代支所と検討を始めつつある。下条小と下条中については小中一貫校ではなく、隣接して小学校と中学校を運営しているということである。下条中が中条中に統合した場合は、下条小、中条小、飛渡第一小を中条中のエリアにしながら小中一貫教育をこれからも続けていくという考え方である。八箇地区については、国道253号沿いに下ってくると川治小、また南中に行けるのでこのままの計画で良いのではないかと思う。</p>
<p>西</p>	<p>日時</p>	<p>9月25日(水) 19:00~19:50</p>	<p>㉑ 子どもが少なくなり、学級や学校の規模も同様であるが、教員数を減らさずにそのままにすることはできないのか。</p>

部 地 区	会場	西部会館	<p>[答] 新潟県が国の補助をいただいた中で人件費を確保している。11 ページに教職員の配当基準にあるものが基本であり学級の数で配置人数が決まる。学校に特段の課題があれば加配ということで教員が1人または2人配置されることもある。</p> <p>② 山間地域では、子どもの数が大変少なくなり複式学級になっているが、どういうマイナス面があるのか、具体的に挙げてほしい。</p> <p>[答] 14 ページに、適正規模、適正配置の検討の際に考慮すべき視点が載っており、小規模校のメリット・デメリットなどがある。小規模だから学力的に落ちるのではなく、教員の大変な努力の上で学力が維持されている。子どもたちが育つ環境として、切磋琢磨する環境が必要なのではないか。ある程度の規模を求めて、子どもたちの可能性を広げていきたい。</p> <p>③ 大事なのは再編よりも教員数を減らさないということではないか。</p> <p>[答] 国が支援を拡充すれば有難いのだが、特別な支援が必要な子どもたちが増えており、普通教室の教員よりも特別支援学級の教員を配置するので精一杯という状態がある。新潟県は、小学校1、2年生を32人学級にして、国の基準40人よりも少ない子どもの数を認めた学級編成をしている。それをさらに一歩前進することはなかなか難しいと思う。</p> <p>④ 十日町市は、その大きな流れに対し流されるということ。結論ありきということか。</p> <p>[答] 教員の配置については、新潟県の姿勢に従うということである。この方針を定めて各地域に説明に伺っているところである。学校を残してほしいという声が多くあるが、保護者の皆さんの多くは複式学級を早く解消したいと考えていると感じる。その中で地域の皆さんが難しい判断をされるものであると感じている。</p> <p>⑤ 地域の説明と同意を得ることはすごく難しいと思う。地域が同意したという判断をどのようにするのか。また、南中学校に松代中と吉田中が統合する計画だが、もし吉田中の統合を吉田地区が反対して、松代中と南中の統合になり、学区が飛び地のような場合はどう考えているのか。</p> <p>[答] 今までの学校統合の例では、地域の代表者及びPTA会長の連名の統合要望書を教育委員会に提出してから教育委員会が動くという形を取っている。公の施設の廃止については地域自治組織に意見を求めなければならないという条例があり、地域に反対があれば、地域自治組織自体が同意するわけには行かないと思う。南中、吉田中、松代中の統合では、吉田地区が反対となると困ったことになる。地域連担ができないことになるため、松代地域の皆さんも簡単には動けない部分が出ると思う。</p> <p>⑥ 再編にあたり学区外への登校は可能になるのか。例えば、十日町中学校区の小学校にいる子どもが進学するにあたり、下条中と川西中と統合した中条中学校に通うことが出来るのか。</p> <p>[答] 以前にやりたい部活動が入学する中学校にないため、別の中学校へ通いたいという相談があったが、認めていない。また、いじめなどにより学ぶ環境を変えたほうが良いということで、別の学校へ学区外就学を行うこともある。教育委員会が定めた一定の基準の範囲で検討している。</p>
	対象	・西部地区振興会 役員、嘱託員等	
	人数	60人	

下 条 地 区	日時	9月30日(月) 19:00~20:40	<p>① 何年か前に小中一貫教育を推進したいという教育委員会の方針が示され、各学区で真剣に取り組んだと思う。下条の教育を考える会を組織し、保護者や地区民から大勢関わって、熱心に検討した。その時に、小中一貫教育に課題が残るといふ話は一切教育委員会からは無かった。当然子どもの減少が分かっていたはずである。教員の配当が十分ではないところを小中一貫教育でカバーできるという前向きな説明であったので、小中一貫教育を推進してきた。今回の学区適正化方針には、小規模校の小中一貫教育に課題がある。統合しなければならないと言葉使いが変わってきている。これは、統合を進めるために変えたのか、当初から分かっていたのなら、小中一貫教育を検討する段階でその先に統合があるかも知れないとの話がなかったため、唐突に感じている。中学校では1学年2学級という方針になっているが、ある学校区では複式学級になるまでは1学級で中学校教育をやれると同じ方針に載っている。他の中学校に対しては、1学年1学級では難しいと、正反対のことが方針にあるのではないか。そこがすっきりしないと、これから検討するにも戸惑いや疑問が出てくる。本当はどう考えているのか。</p> <p>[答] 教育委員会としては、小中一貫教育は依然として大事な教育の方針であり、これからも取り組んでいくものと考えている。19ページの③の部分で、小規模の小学校と小規模の中学校による小中一貫校では、本方針における望ましい教育環境にならないと表現している。小学校については、複式が無い1学年1学級以上とし、中学校については1学年2学級以上というのが大きな方針になっている。それが以前と比べ大きな違いで、小中一貫教育を始めたときにはそのような考え方を持っていなかった。学区適正化検討委員会で検討した中から、統合した後またすぐに統合が課題になるようなことが無いように、方針の期間は10年だがその先を見越した形で再編をするという答申であった。それを受けて、中学校については1学年2学級以上とした。1学年1学級以上の小学校と1学年2学級以上の中学校であれば、小中一貫校として検討の余地があると思う。ある中学校区が複式になるまでという表現であるが、まつのやま学園のことではないかと思う。まつのやま学園は、松之山中学校が老朽化して改築する際に幾つかの場所を検討し、最終的に松之山小学校に併設した形で小中一貫校として開設した。開設して間もないことと地理的条件が大きく関わり、松之山の子どもたちを統合先に連れてくるには通学時間が1時間以上かかってしまい、寄宿舎の対応を考えなければならない状況がある。第2次方針の中では、複式が見込まれる場合は再編の対象として検討すると表現している。松之山地域の皆さんは、果たしてこれで良いのかと心配されているのも現実である。松之山地域では、以前山村留学を取り組んでおり、そういった取り組みで子どもたちを増やせないかという考えもあるので、期待しているところである。</p> <p>② この第2次方針では、令和10年度、或いは13年度までのビジョンであるが、その後20年後30年後の十日町市の中学校はどうなっていく見込みなのか、全体の流れを説明してほしい。そうすれば、皆さんがなぜ今こういう話が出ているのか分かると思う。</p> <p>[答] 20年後30年後の子どもたちが、どうなっていくのかを想定するのも難しいと思う。当市では、人口ビジョンを作っており、その中では人口がなだらかに減少していくという傾向がある。子どもたちも減っていくのではないかと思う。人口減少を座して待つのではなく、産業振興対策や子育て支援対策など様々な人口</p>
	会場	下条中学校 体育館	
	対象	・下条地区振興会 ・地域住民	
	人数	55人	

増加対策をしっかりと取り組む中で、成果が出てくれば必ずしも減少にはならないと思う。資料には、昨年生まれた子どもが令和13年には中学生になり、中学校はこのような人数になるということを示しているところでありご理解賜りたい。

③ 22ページに中学校の再編スケジュールがあるが、保護者の同意、要望書とある。中学校のPTAが要望書を提出することがスタートで、PTAがどう考えるかがポイントということか。

[答] どこも地域の皆様は、出来るだけ学校を残したいという願いが強い。今までの統合という経過を見ると、最初に保護者の皆さんが意見を統一して地域の皆さんと話し合ってきたというのが多い。現在PTAの保護者とこれから学校に就学する未就学児の保護者の皆さんがしっかり話し合いをしてほしい。その後地域の皆さんを交えて検討していただければ有難い。

④ 11月5日の学校運営協議会と保護者の合同説明会をどういう形で周知されるのかと、その参加する範囲について教えてほしい。

[答] 説明会のご案内については、教育委員会から下条中学校と下条小学校の学校運営協議会と保護者の皆様には、学校経由で案内文書を差し上げる。未就学児の保護者には、案内文書を郵送する予定である。

⑤ 今回の方針が示されるにあたり、下条中学校の学区をどう理解されこういう方針となっているのか。また、中条中の大井田地区の子どもが十日町中に再編され、中条中が減るので下条中が統合されるというように見えるが、具体的に説明してほしい。

[答] 検討委員会でどのような議論があったかということでは、冊子の30ページに審議日程・内容が載っている。審議の経過の中で、私からこうしてくださいなどと指示はしていない。16人の委員の皆さんがご自分の知見の中で議論を深めていただいたと思っている。小学校は1学年1学級以上、中学校は教員がある程度配置でき、子どもたちが切磋琢磨する環境として1学年2学級という結論が導きだされた。各地区で説明会を行ってきたが、中学校については残してほしいという意見をいただいている。ご意見、お気持ちを聞かせていただき、どのような検討が出来るか。良いアイデアや教育環境に変化があればこの方針も見直さなければならないかも知れない。基本的にはこの方針を各地域で説明に入り、皆様からの意見を賜りたい。東小学校については、難しい課題であり、保護者と地域、後援会の立場では考え方が違い、教育委員会が間に入りどうコンセンサスをとれるのか、皆さんの声に耳を傾けながら調整を図りたいと考える。中条中学校は、全体で9学級まで引き受けられる規模がある。下条中学校を受け入れることはいつでも出来る。川西中学校については、当面1学年2学級の規模を維持することと、今すぐには中条中に受け止めきれず、令和9年度にならないと統合できない。

⑥ 検討委員会には下条の人がいない中で決めている。4年、5年後に下条中が中条中に統合すると聞いて、急な話に感じて納得できないと最初に思った。説明を聞いて、10年後を目途に同意さえあれば早く統合するということだが、中条中が下条中に統合という考え方は無いのか。

[答] 学区適正化検討委員会では結果として、1学年2学級以上という基本方針となったため、下条中に大きな影響が出ている。委員を選考する際に、下条地区の方を入れるということは考えていなかった。4年、

5年後に中条中に統合という話は、昨年の12月に中間報告をした際に、中学校は令和5年度を目標にするとしていたため、現在も噂になっているのではないかと。あまりに性急であるということから、教育委員会の方針としては令和10年度としたが、教育委員会が独断的に統合を進めることはなく、地域の皆様の納得のうえで統合になれば一番有難い。この方針を今提案することにより、子どもたちの学ぶ環境としての将来を地域で議論していただけると有難い。下条中は、全校で4学級と特別支援学級が2学級という大きさであり、中条中を受け入れる規模はないということである。

⑦ 東小学校が十日町中学校と中条中学校に何人ずつ進学するのか記載が無いが、方針にある生徒数と次第に付いている資料の生徒数が違って、推測で話をされても分からない。

[答] 方針に記載の生徒数と本日配布資料の生徒数には若干の違いがある。それは、方針にある数字は昨年検討したときのもので、その後子どもたちが転出、転入などがあり、最新の住民基本台帳から本日の資料としてまとめたものになる。

⑧ 東小学校から全児童が十日町中学校へ行くには大きな問題があるということであるが、学区適正化検討委員会の会議録を見ると、下条中学校が中条中学校に統合した場合には、東小学校の問題が解決できるというような内容があった。下条地区の委員がいない中でそのような話が出たことに驚きと憤りを覚えた。今後の説明会にあたっては、会議録を見てくる方もいると思うので、皆さんの感情に配慮した丁寧な説明をしてほしい。

[答] 結果的に下条地区の方を委員に入れなかったことは、配慮が足りなかったと反省するところである。また、下条中と中条中の統合についての会議録は、前後にどのような経緯があったか今は分からないが、地域の皆様の気持ちを考えると不適切な表現があったのではないと思う。会議録を確認して今後の説明に活かしたい。そのような表現については、下条地区の皆様にお詫びを申し上げる。

⑨ 地域振興の拠点として学校があるので、学校統合は簡単ではない。先人たちの思いがあって学校ができたことを無視して進めることは無理がある。検討委員会で議論されたのか、方針には表現されていない。また、学校教育のあり方として学区再編を考える視点では、国は義務教育学校という制度を作り、小学校と中学校の教員が相互に乗り入れができて教員の不足を解消できるということの方針の中でどう考えられたか。子どもたちをどう育てるかについて、学力の向上、スポーツ、いじめ・不登校など、学校のあり方を大勢の方が心配している。十日町市の状況を見たときに、中学校は1学年1学級の方が、学力が備わっており、いじめ・不登校も少ない。また、スポーツを通して子どもたちが成長する、教育効果が劣っているとは思わない。中学校は1学年2学級、小学校は1学年1学級という、方針の基本の根拠が脆弱である。

[答] 地域振興について、学区適正化検討委員会の中では、子どもたちの学ぶ環境を第一に考えようということで議論が進んだ。発言はあったが、地域振興の議論が深まったということではなかった。地域振興は教育委員会ばかりではなく、市全体で考えなければならない課題だと思う。学校を作るとき先人の思いについては、大切なことだと思う。昭和22年に新しい学校教育法が施行され、中学校を作る際には、子どもたちの学ぶ環境をしっかりと作って行きたいと、地域の皆さんが集落の木を切り出して木造の校舎を作ったの

(下条地区)		<p>ではないかと思う。先人の思いは常に頭に入れておかなければならないということで、方針の表現に配慮が欠けていたと反省する。義務教育学校については、中学校は1学年2学級、小学校は1学年1学級という条件が合うものであれば、検討しないわけではないが、今の段階では統合が先であり、義務教育学校の検討はされていない。国は、学校の適正規模では、小学校も中学校も12から18学級で1校を標準としている。大勢の中で学ばせることが、大切な要素なのではないかと思う。子どもたちをどう育てるかということでは、大きな学校も小さな学校も学力的に大きな差があるとは考えていない。学校にもその年よって波があり、色々なことが起こる。小さな学校では教員の配置が少なすぎて、対応が難しいこともある。ある程度の規模で教員が充実した学校の方が、学ぶ環境としてより安定的な教育活動ができると思う。複式学級の先生方は、本当に頑張っており、大きな学校と差が無いように色々な努力をして、苦勞されているのは事実である。教育委員会としては、ある程度の規模で教員配置が充実した中での教育環境が、学校運営として目指す方向ではないかと思う。スポーツを通して子どもたちの成長ということでは、子どもの人数が少ないのではないかと思う。団体競技が成立しなくなることや個人競技でもリレーのメンバーが揃えられないなど、ある程度的人数の中でライバルと切磋琢磨する環境を整えられれば有難いと思う。</p>
--------	--	--

### 【川西地域】

	日時、会場等	主な意見等
橘地区	日時	9月18日(水) 19:00~20:30
	会場	橘小学校 体育館
	対象	・学校運営協議会 ・保護者 (3~5才児含む)
	人数	40人
		<p>① 新聞報道では、2年後には橘小学校が上野小学校に統合し、その何年後かに千手小学校に統合するとなっていたが、どういうことなのか。 [答] 教育委員会としては、地域の皆さんの合意がなければ進めない。新聞報道にどう記載があったか見ていないのでわからないが、事実とは違っている。</p> <p>② 橘小学校が上野小学校に統合することになった経緯は、どういうことなのか。 [答] 第1次学区適正化の方針にもそのように計画した。上野小の建物が新しいことと上野小には仙田地区から子どもたちが通っているため、上野に寄せる方がスクールバスの運行がしやすいということもある。</p> <p>③ 資料を見るかぎり、上野小の人数が多いからそちらに統合するように見える。上野小が新しいというが、橘小は体育館も校舎も耐震改修して使用しているではないか。 [答] 上野小学校においても耐震化改修をしており、地震でも大丈夫となっている。第1次方針をたてたときは、上野小では複式学級にならない見込みで、橘小は複式学級となる見込みがあった。また、スクールバスを運行するには大勢移動させることはストレスになり、なるべく少ない方が学校運営はやりやすい。</p> <p>④ 子どもたちが授業をする環境について、近くの豚舎から風向きにより臭いがあり、気持ち悪くなったり、</p>

体調を崩したりすることを考えたことはあるか。

[答] 上野小については、近くに養豚場があり地域の皆さんも悩ましく思っているところである。私が校長に聞いたところ、子どもたちが臭いについて不満を言うことは聞いていないとのことである。臭いが発生するのは、朝と夕方子どもたちが帰った後が多いのではないかと考えている。

⑤ 上野の保護者から聞いたが、エアコンの設置が悲願であって、何度も頼んでやっとエアコンを入れてもらったと言っていた。それだけ悲願であるということは大変なことだったのではないか。

[答] エアコンについては相当前に設置したものである。地域住民がどのように要望されたかについては存じ上げていない。上野小学校に行くことがあるが、臭いが大変だということは無かった。学校運営に支障が出ているということではないと理解している。

⑥ 少子化が進む中で、1学年1学級に1人の教員という配置基準は仕方ないと思うが、人数が少なくても平等の教育が受けられる環境を整えることが一番大事ではないか。学校に課題があり、保護者が声をあげて統合であれば良いと思うが、統合に進む仕組みとして、国や県のシステムは如何なものかと思う。18 ページにまとめとして、「ふるさと十日町市を愛し、自立して社会で生きる子どもの育成を目指し・・・」とあるが、自分たちが育ってきたように、橘小学校で学び、上野小や千手小の子どもたちと交わり、自分たちの地域の良さを話すことが文化を知ることになる。上野保育園に橘保育園が統合したが、上野保育園の子どもが橘に散歩には来ていないことから、地元の良さに触れる機会が減ってくるのではないかと思ひ矛盾を感じる。19 ページで「複数の中学校に分かれて進学する小学校については、全員が同じ中学校へ進学するよう学区を再編します。」とある。津南中等教育学校がある中で、中学校を選べなくなってしまうのか。計画期間の10年のその先を見越してということだが、上野小と橘小だけで千手小が含まれないのはなぜか。中学校再編学区の位置図で、川を挟んで川西中が下条中と中条中に統合されるのはなぜか。例えば、川西中と吉田中の統合が良いのではないかと思う。

[答] 教員配置については、国と県の学校の標準規模が、小学校、中学校ともに12学級から18学級としており、それに合わせて教員配置をしている。小学校では1学年2から3学級、中学校では1学年4から6学級を標準としている。全国的に少子化ということで、標準を下回る学校も増えてきているが、国は変えていない。教職員の給料についても国が支援して、新潟県が支払っているところであり、国の支援が大きくなりえない限り、配置を変えられないことが悩みどころである。地域文化のことでは、おっしゃるとおりの部分もあると思うが、地域文化をできるだけ子どもたちに理解してもらうため、教育委員会としては「ふるさと教材」という冊子を作り、小学校5年生から中学校3年生まで同じ教科書でふるさとを学んでもらう。初めは、周辺地域の歴史や文化を学んで、中学生では市全体のことを学んでもらう。学校教育で足りないことがあれば、ご家庭で地域の伝統などや祭りの行事に子どもたちに参加してもらうと有難いと思う。

19 ページについては、十日町地域の東小学校のことを指しており、6年間一緒に学んだ後、十日町中学校と中条中学校に分かれて進学することから、保護者から声があり方針に加えたものである。10年先をみこして、千手小学校をなぜ含めないのかということでは、千手小学校については当面複式学級にはならない見

込みであり、今の基準では1学年1学級以上であれば存続ということであるため、今回の再編計画には入らないことになる。24 ページの中学校再編の位置図では、子どもたちの学ぶ環境として1学年2学級以上を基準とする検討委員会で議論があり、教育委員会としてもそのとおりとした。川西側に吉田中と松代中と川西中が一緒になっても良いのではないかと吉田地区や松代地域の説明会でもご質問があったが、スクールバスでの送迎だけでなく民間の路線バスのルートがあれば、乗り遅れた場合などに路線バスを利用できるという考えがある。松代中、吉田中から川西中へ行く路線バスは無いが、国道 253 号沿いに松代中、吉田中、南中があるので第2の手段として利用できる。ほくほく線という手段もある。また、川西中については、1学年2学級の学校に改築しており、今もし統合すると1学年3学級の人数になり収まらないことにもなるので、松代中と吉田中と川西中の統合については断念した経緯がある。川西中は川を挟んで中条中と統合ということだが、中条中は1学年3学級ずつの規模があり、スクールバスの送迎にもあまり遠くならないという考え方である。

⑦ 上野小に統合する理由に、上野小の建築年が2年橘小より遅いことと、スクールバスで多くの児童を運ぶことが挙げられた。上野小と橘小のどちらを選ぶかについて、現在の在校生の保護者と未就学児の保護者を含めた中で考えた方が良いと思う。グラウンドや校舎は橘小の方が大きいし景色が良い。上野小の正面入口付近がカーブで非常に危険である。上野小に決めるのではなく、もう一度お互い良いところを理解した上で決めた方が得策ではないか。

[答] この学区適正化に関する方針は、教育委員会で決定したもので、これを基に説明会を行っている。説明会の過程の中で色々なご意見を伺いたいと思っている。それを踏まえてこのままの方針にするのか、どうするかを説明会が一巡した後、改めて考えていきたい。

⑧ これからも説明会があるということだが、アンケートや質問用紙を配布するなどはしないのか。

[答] アンケートについては、説明会では行っていない。

⑨ 上野小に統合することが決まっていて、説明会では意見を聞きましたということで終わりなのか。

[答] 説明会での質疑やそれに対する回答を1ヶ月分ごとにまとめて、市のホームページに載せるので、それを見ていただくと有難い。

⑩ 子どもが上野保育園に行っているが、朝8時頃保育園に送ると豚の臭いがして、気持ち悪いと子どもが言っていた。金曜の夜は窓を閉め切るそうだが、夏場の土曜保育で朝保育園に行くと蠅が多い。締め切っている、子どもたちが蠅たたきで1人10匹はたたけるくらいに多い。臭いが強い日は窓を開けていないことを教育委員会は知らないと思う。上野保育園を作るときに、風向きに配慮して作るといったが、夏場の暑い日も窓を開けられず、外でも遊べない。

[答] 暑い日に上野小学校と上野保育園に行って確認しようと思う。

⑪ 川西中学校が統合した後の校舎の活用を何か考えているのか。

[答] 川西中の校舎は、建設してからまだ3、4年という中で統合の方針が示された。しかし、当分の間は1学年2学級の規模を維持することから、すぐに中条中に統合することはできず、7、8年は今のままであ

る。もし統合が実現し、空き校舎になった場合にどのように活用するかについては、教育委員会だけの問題ではなく、市全体の問題として活用を考えていきたい。今まで閉校になった校舎の活用としては、松代、松之山地域では大地の芸術祭の作品会場に活用している。吉田地区の真田小学校は、絵本と木の実の美術館に利用している。六箇小学校については、民間に売却して工場として活用している。何らかの形で活用することを考えていかなければならない。

⑫ 川西中が中条中に統合し、地震が起きて橋が通行できない場合は、どうやって子どもたちの保護や安全確保をするのか。

[答] 授業中に大地震が起きて、交通が遮断されたとなった場合は、学校の中で安全確保し、食料や水などを用意し、冬であれば暖房の処置などを対応しなければならないと考えている。

⑬ 中条中学校が一番古いと聞いたことがあり、安全性についてはどうなのか。

[答] 市内の学校は、全て耐震化改修が終わり、大丈夫である。学校施設の長寿命化計画により、より長く使えるように、各学校の安全確保について適宜改修をしながら、維持管理をしていく予定であり、ご安心いただきたい。

⑭ 中学校の統合により、授業日はスクールバスを運行してもらえと思うが、休みの日の部活動に橘地区から自転車で通うことが可能であった。中条中には自転車では無理であるので、その場合の対策を考えているのか。

[答] それについては一番悩ましい問題として、これからしっかりと検討しなければならないと考えている。

⑮ 川西高等特別支援学校と川西中学校の校舎を入れ替えて、教室数も確保できるのではないかと。新潟県の施設なので難しい面もあると思うが、検討することはできないか。

[答] ひとつのアイデアだと思う。どういうことができるかについて、今後研究していきたいと思う。

⑯ 上野小と橘小の児童数の推移を見て、人数は大きく変わっていないと思うが、上野小には上野地区と仙田地区の子どもの割合を把握しているか。スクールバスを仙田地区で1台、上野地区が1台でいいのであれば、ストレスは少ないのではないかと。令和6年度には、橘小の48人をスクールバスに乗せることをどう考えているのか。

[答] 48人では、スクールバス2台になると思う。仙田地区の子どもは上野地区の子どもより少ないと思う。

⑰ 中学校でスクールバスに乗り遅れたら、民間の路線バスに乗って通えるという話があったが、橘地区から中条中に行くにはバスを2回乗り換えないと行けないと思う。川西中なら自転車でも行ける距離であり、民間のバスもあると思う。

[答] 松代の子どもが川西に来るにあたってと南中に行くことについての比較として話をしたもので、川西地域の子どもは川西中に通いやすいのは確かであるが、当面は1学年2学級を維持する見込みであり、7、8年先から生徒数が少なくなってくる。子どもたちの望ましい教育環境として、どちらを取るかという議論になると思う。今後この説明会が一巡した段階で、検討する材料だと感じている。

⑱ この学区について、バス路線だけで言えば川西も南中に行った方が良いのではないかと。この説明

会を重ねて何か変わることがあるのか。

[答] 基本的にはこの方針が最良として説明させていただいている。このような説明会の中で色々なアイデアが出て、検討すべきことがあれば、改めて検討すべきではないかと感じている。この方針が絶対とは捉えていないが、この方針が基本になるとご理解賜りたい。

⑱ 地域の理解が得られないと話が進まないということだが、何を基準に理解が得られたと判断するのか。

[答] 今までの例では、このたびの貝野小と田沢小の統合や倉俣小が田沢小に統合した際にも、PTA会長及び地域の代表の連名の統合要望書を提出いただいた。それをもって了解という形をとるのが最良であると思う。要望書を提出された後でも、地域の一部の方は依然として反対しているということも聞くが、地域全体として要望書が提出されれば、地域の考え方と理解させていただく。

⑲ 橘地区振興会で反対の署名が提出された。そういうことが続けば橘地区の理解が得られないと判断されるのか。

[答] 当方が説明会をする前に反対署名をされたもので、できれば説明を聞いてご理解をいただいたうえで反対ということであれば、統合を進められないと思う。まず保護者の皆さんが話し合っただけでどういう方向にするか考えてほしい。そのうえで、地域の皆さんと話し合いをしていただければ有り難い。要請があれば話し合いの場に教育委員会が出席して説明させていただきたいと考えている。

⑳ 例えば、運動会をそれぞれで行うのではなく、それぞれの学校を紅白に分けて一緒に運動会をそれぞれの学校のやり方で運動会を行うことで、上野小での臭いがわかると思う。そういう環境を保護者に知ってもらい、上野小と橘小を比較して、どちらの学校が子どもたちにとって良いのかを考えるべきである。それから地域の皆さんに理解していただく場を作ってほしい。

[答] そういうことを考えたことがあり、吉田小と鑑島小の統合も以前から難しい問題となっており、運動会で子どもの人数が少なくてライバルが少ないと感じる状況があった。もう少し大勢の人数で運動会を1年おきに交互に学校を変えながらできないものかと、校長に話をしたことがある。上野小と橘小についても同じようなことと感じた。

㉑ 親や地域の意見を聞くより、子どもたちの意見は聞かないのか。

[答] 子どもたちについては、置かれた環境の中で活動するものと思っており、比較ができないのではないと思う。先ほどの意見のように、お互いの学校を訪問しながら運動会をすることで、地域の雰囲気子どもたちが感じることであれば良いことではないかと思う。

㉒ 橘の子どもたちが上野小にバスで通うことになったら、どこでバスに乗るのか。小学校のスクールバスには添乗員はいないのか。

[答] 基本的には、子どもたちがいる集落からバスに乗車することになる。松代地域では、市営バスに中学生と小学生と一緒に乗っている。橘地区ではどういう形でできるかについてはこれから研究しなければならないと思う。

㉓ 路線バスのバス停を使うのであれば、バス停の安全性を考慮してほしい。小学校1年生が雪の中待つて

(橘地区)		<p>いるのは可愛そうだし、乗り遅れたらどうするのか。橘小なら歩いて行けるが、バスに乗り遅れて家には誰も居ないというときはどうするのか。</p> <p>[答]もし乗り遅れた場合はどこの家に行き、その後のことを相談するなど、様々なことについてこれから研究する。色々なご心配を当方に寄せていただきたいと思う。</p> <p>㊸ 説明会の内容はホームページに載せるということだが、上野小と橘小のそれぞれの説明会の意見を見ることしかできない。合同の説明会などをお願いすれば実現するのか。</p> <p>[答] そのような説明会をご希望であれば当方が実施することもできる。また、質疑の内容を早く知りたいということであれば、学校を通じてお渡しすることもできる。</p> <p>㊹ この後地域での説明会があるが、その後はこちらから希望すれば説明会をしていただけるとのことか。</p> <p>[答] 基本的にはそのように考えている。</p> <p>㊺ 説明会をお願いするには、個々の意見なのか、代表者から申し入れする形になるのか。</p> <p>[答] 個々ということで、ひとりであれば教育委員会へ来ていただきたい。ある程度の人数がいれば当方が参上して説明させていただく。できれば代表の方から依頼していただくと有難い。</p> <p>㊻ この説明会のあとのスケジュールはどうなるのか。この後はどのように決まっていくのか</p> <p>[答] 保護者の皆様のご要望が大前提となる。それがあつたうえで、地域の皆様のご理解をいただくような説明を行うことになると思う。今日この説明会が終わってから、PTA役員の方と今後の進め方、会の持ち方等について話をしたい。PTAのご要望により、説明会を行う、またはアンケートをとるなどの色々な方法があると思う。まずは、保護者の皆様の意見集約が大前提となって、これから進んでいくと思う。</p>
-------	--	---